

令和元年度 第6回練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会 会議要約

◆開催日時

令和元年8月28日(水) 13時30分～15時00分

◆開催場所

練馬区役所本庁舎19階 1903会議室

◆出席者

1 委員

秋元雄史委員長、大谷康子委員、高橋幸次委員、福井直昭委員、江村健二委員、島田紘一呂委員、江川誠志委員、須藤麻世委員、前田尚子委員

小金井靖(地域文化部長、副委員長)、小沼寛幸(文化・生涯学習課長)、

竹永修一(東部地域まちづくり課長)、原田昭二(道路公園課長)、清水優子(光が丘図書館長)

2 事務局

文化・生涯学習課施設計画担当係 林、渡邊

株式会社 丹青研究所

◆会議意見要約

議事 (1)美術館再整備ワークショップの実施報告についてについて

(2)これまでの検討委員会における議論のまとめについて

【委員】

・ワークショップに参加してみて、参加者の意見が、今まで私が委員会で言っていたことと同じだと感じた。共感できたので嬉しかった。

【委員長】

・これまで4つの要素で構成していたものを、わかりやすく3つにした。1つ目は外観や景観のことであり、駅や商店街も含めて景観をつくり、まちづくりにつなげていく。2つ目は美術館の基本的な方向で、コレクションをさらに充実し、企画展もブラッシュアップしていく。基本的な枠組みは変わらないが、「現代」に少しずつ軸足を移す。機能面では展示室の拡充や、収蔵庫の空調などの見直しをする。また、アーティスト・イン・レジデンスの展開もアイデアとして出ている。3つ目は、この施設のユニークな特徴になるが、図書館との関わり方をさらに強め、図書館利用者、公園利用者、美術館利用者の関わりを強くしていく。

・こうした方針に則し、施設整備計画では、サンライフ練馬の面積を取り込んだ8,000㎡という面積での整備を想定している。また、機能構成図(案)として示しているが、来館者は入ってすぐに専門的な機能に行くのではなく、交流部門のパブリックスペースを通過する。このパブリックスペースのウエイトを大きくすることで、今まで感じていた美術館への壁を少しでも低くしたい。

【委員】

・美術の森緑地から美術館へと続く階段が、威圧的で上りにくい。せめて植栽でもあって、美術館へ誘うような工夫がほしい。

【委員】

・子どもでも外国人でも辿りつけるような館内サインを整備してほしい。

【委員】

- ・公園に来ている親子連れが一步でも美術館に入ってくれることはすごく大切なことだと思うが、静かに観たい人がいることも大切にしてほしい。
- ・サポーターがキッズコーナーの手伝いをするとか、アートの図書の整理をするとか、仕事を増やしていくとよい。

【委員】

- ・拡充しようとする中で、トイレが少ないのは困る。
- ・空調から出る騒音には配慮してほしい。音、振動、使い勝手、動線を考えて、ゆとりがあり、緑と一体となったものができればと思っている。
- ・サインは駅からも含めて考えなければいけないと思うが、アーティスティック、かつ、わかりやすいものを考えてほしい。

【図書館長】

- ・ブック・アートキッズスペースは図書館と美術館の共用としたほうが、考え方として良いのではないかな。
- ・対面朗読のニーズが高いので、実際に使う場合は単独でも活用できるような方法を一緒に考えていければと思う。

【委員】

- ・今の段階では良いのではないかなと思う。この先、これを削って、情けないものにしないでほしい。
- ・今後は平面図や模型を期待している。

【副委員長】

- ・委員会の中でも、サンライフの機能の代替をというご意見もいただいている。勤労福祉施設という位置付けではあるが、時代も変わっているので、いらなくなっている機能と現在も使っていて必要な機能を整理している。現時点では仮にサンライフ練馬を壊して 8,000 m²使った場合を想定している。

【委員】

- ・サンライフの機能を少しだけ残してここに入れるよりは、他できちんと代替ができればよいと思う。

【委員】

- ・訪れた人がどのような展示を行っているのかわかり、時間があったら寄っていきたいと思えるような雰囲気のエントランスだったらよいと思う。

【委員】

- ・美術館の来館者が多くなるのが究極の目標だと思う。
- ・美術館の建物のそのものが芸術的で、建物自体に話題性があり「1回行ってみよう」と思われるような美術館にしてほしい。

【委員長】

- ・建物は重要なので、中村橋のランドマークになるようなユニークな設計にしていくことは大事だと思う。

【委員】

- ・駅から美術館やアートという雰囲気になれば良いと思う。しかし、それを実現するためには鉄道事業者や区や地域とのいろんな連携が必要になる。一部だけを先に決めるのではなく、全体像を皆さんで話し合っていくのが理想だと思う。
- ・家族やまちの人を含めて、みんなが「中村橋と言えば美術館」となったら良いと思う。

以上